

令和3年度 自己評価結果公表シート

令和4年4月
社会福祉法人 三愛福祉会
きむら伊奈保育園

園概要

平成28年4月に開園し、今年度7年目となる。地域の方にもご理解を頂きながら、暖かい雰囲気の中で、保護者の皆さまと共に歩むことができている。

法人理念

一人ひとりの子どもが
心より愛されていると実感し
安心した日々を過ごし
生きる力、将来への夢と希望が
支えられ育まれる
子育てを通してすべての人々の
自己実現をねがい
ニーズを先駆的に取り組み
ともに歩み
未来を創っていく

私たちの価値観

- ・常に最高の教育・保育内容を学んでいきます。
- ・日々最高の教育・保育実践を追求していきます。
- ・子ども、保護者、職員、地域の笑顔を創ります。
- ・地域社会の幸せに貢献します。

私たちの目標

1. 持続的成長法人を目指します。
2. 心からのファンを持つような、地域から支持の高い法人を目指します。
3. 職員とその家族が誇れる、職員満足の高い法人を目指します。
4. 自法人らしさを大切にしていると思われる、個性あふれる法人を目指します。
5. 地域や社会からなくてはならないと思われる法人を目指します。

一人ひとりが大切にすること

- ①コミュニケーションを通して、開かれた正直な人間関係を構築しよう。
- ②チームで創り上げる力、お互い様の気持ちを育てよう。
- ③情熱と継続する意志を持とう。
- ④成長と学びを追求しよう。
- ⑤謙虚さを忘れずに。
- ⑥変化を受け入れて、前向きに原動力としよう。
- ⑦心をオープンに、創造的に。
- ⑧笑顔と楽しさ、ちょっとした遊び心を大切にしよう。

基本理念

安心そして信頼すべては子どもの最善の利益のために

基本方針

- ・子ども達が望ましい未来を作り出す生きる力の基礎を培います。
- ・愛情いっぱいにあたたく受容し、信頼感や自己肯定感を育んでいきます。
- ・日光、空気、土と水を大切に、子どもが育つ場にふさわしい施設設備に努めます。
- ・一人ひとりの子が、力いっぱい、精いっぱいの生活ができる楽しい園づくりを目指します。
- ・保護者や地域の人達に好かれ、信頼され、地域の団体や諸機関にも開かれた園づくりを目指します。
- ・地域社会の一員として園に関わるすべての人々の自己実現につながる活動を目指します。

保育目標

友達と仲良くできる子	からだの丈夫な子
一生懸命がんばる子	よく考え行動する子
思いやりのある子	

「たくましい体と心豊かな子どもの育成」をめざして子ども一人一人が、
楽しく充実した園生活が送れるように努力する。

今年度重点的に取り組む目標

◎保育の質の向上

- ・保育内容
子ども主体の保育
多様性を認め合う保育
保育のプロセスを見える化
- ・保育環境
自分で選択をする機会を多くつくる
安心して過ごす
- ・人材育成
働きやすい職場環境づくり
- ・組織運営
クレドの共通理解と浸透を図る

◎保護者・地域共育

- ・みんなが笑顔でホッとできる園づくり
笑顔で気持ちよく日々のコミュニケーションを楽しめる人と人の繋がり
- ・子育て支援
子育ての素晴らしさを共有
- ・地域資源の活用
地域の方々との繋がりを深める
- ・パパママ先生の受け入れ
安心して子どもを園に預けることができる

◎業務、オペレーション改善計画

時間の効率化を図ることで休憩時間を確保する

◎SDGsが実感できる活動の実践

年長児を中心に、地球の問題や自分たちに何ができるかを考える

評価項目別の達成及び取組状況

項目	取組状況
基本理念・基本方針・保育目標を認識し、職員間の共通認識を図る	基本理念・基本方針・保育目標についてはクレドを園内の目につく場所に掲示をしたり、朝礼の際に必ず一項目ずつ触れるようにし、職員が日々意識をして保育に取り組めるよう環境を整えた。また、職員1人ひとりの取り組みについて振り返る機会も用意した。
保育、教育内容	保育の質を向上させるため、以下の内容を特に意識して日々の保育に取り組んだ。 『子ども主体の保育』:各学年ごとと子どもの成長発達に応じて、子どもが自分でやってみたいことを見つけて、自分で考えて遊びや活動を展開できる環境を整えた。 『多様性を認め合う保育』:それぞれの違いを受け入れて一人ひとりの良さが活かされるよう、言葉がけや対応など意識をして取り組んだ。
保育の質を向上させる会議、研修の充実	・月に1回の各学年、ポジションごとの省察会議では、日々の子どもの姿から援助の仕方や環境構成などについて調整を行った。また、気になる子の対応などについては、全職員で共有が必要ため職員会議で取りあげ連携をしながら日々の保育にあたった。その他、保育の気づきについて主任会議や副主任会議も随時行い改善に努めた。 ・園内研修では、園長・主任・副主任・看護師等が講師となり、その時々に必要な内容について全職員で共有を図った。また、外部研修にも可能な限り職員に参加を促し、良い内容については保育の中でも活かせるように参加をした職員からフィードバックを行ってもらった。
保育計画への職員間の共通理解を図る	保育計画の深化・承認を行い、各クラスの子子ども達の姿からクラスにあった、また一人ひとりに合った計画を立てるよう心がけた。またクラスの気になる子については、省察会議や主任会議などで今後の対応について協議をしたうえで全職員で共有する機会をつくった。また、早い時間帯や遅い時間帯に当番として関わった際の子どもの様子についての情報提供も積極的に行い、全職員で一人ひとり子どもの健やかな成長を支えた。
危機管理	月1回のヒヤリハット研修では、事例をもとに自園において同じようなことが起こらないように、全職員で「原因は何か」「どんな危険が考えられるか」「再発防止策はなにか」考える機会をもった。また安全衛生委員会を立ち上げ、園内の安全衛生に関わる課題を出し合い一つひとつ解決に向けて努めた。その他、消防署に依頼し応急救命の処置法や心肺蘇生法を学び、看護師を中心にアレルギー・エピペン研修なども行った。
保護者とのかかわり	コロナ禍であるため保護者参加の行事は少なくなっていたが、園内における子ども達の様子が分かるように、日々、クラスごとに玄関に写真とコメントの掲示を行った。また行事については、保護者目線で複数のiPadで撮影した動画をアップしたり、個人写真(子ども達がマスクを取った姿)をアップしたりなど工夫した。保護者からは「実際には見られなかったけれども、工夫をして動画や写真をアップしてくれてありがとうございます。」との声を多くいただいた。また送迎時間に玄関に立つなど、保護者とのコミュニケーションの機会を積極的につくった。
地域との交流	コロナ禍ということで、地域の方を園行事にお招きするのは困難な状況だったが、お散歩に出掛けた時などには子ども・職員共に地域の方に積極的に挨拶や会話をしよう心がけた。また、裏園庭の草取りやお芋掘りの苗づくりなど、特にお世話になった地域の方々には感謝の気持ちを絵や言葉にしてまとめ、園の代表の子ども達と自宅を訪問しお礼の言葉と共にプレゼントする機会をつくった。その結果、地域の方々との繋がりが距離が今まで以上に近くなったように感じる。

職員一人一人が自己評価をしてみたの総合評価結果

年度初めに、保育内容確認シートを用いて『子どもの人権』『子ども達にとっての良い保育』『保育環境』『健康管理』『食事』『子育て支援』『保護者支援』そして『保育実践の振り返り』を全職員にしてもらい面談を行った。園として大切にしたいことについて年度初めに確認をしたことで、全職員共通意識のもと日々の保育を行うことができた。また保育実践の振り返りをしたことで、各自、保育の中で大切にしている事の確認や反省点が明確になり、新たな気持ちで日々の保育に取り組むことができたのではないかと感じる。

また、キャリアコンパスシートを用いて全職員に令和3年度の個人目標を具体的に設定してもらった。育成面接者と園長と定期的に面談を行うことで、振り返りをしながら一年間、個人目標の達成に向けてそれぞれが努力をすることができた。1年間の取り組みが終わり、それぞれに振り返りをしてもらったところ、目標を達成することができた職員が多かった。

令和3年度は園全体として『安心できる保育環境づくり』と『働きやすい職場づくり』に特に力を入れ取り組んだ。『安心できる保育環境づくり』では、安全衛生委員会を立ち上げ、園内の安全衛生についての気づきを全職員で出し合い改善に向行けて努力をした。また『働きやすい職場づくり』では、時間の効率化を図り休憩時間の確保を目標として掲げてきたが、職員全員で調整・連携をしながら少しずつ改善されてきている。

保育環境の改善や働きやすい職場づくりの取り組みによって、職員も日々、笑顔が多く明るく前向きに保育を行えるようになってきていると感じる。

今後取り組むべき課題

※今年度も令和3年度の取り組みが更に充実した良いものとなるよう、職員全員で意識をしながら日々の保育にあたっていきたい。

1. 保育内容として

『子ども主体の保育』

言われて行動するのではなく、子どもが自分でやりたいことを見つけて、自分で考えて遊びや活動を展開し達成できる環境をつくる。

『多様性を認め合う保育』

それぞれの違いを受け入れ、一人ひとりの良さが活かされることで、子ども達の柔軟な心を育む。

『保育のプロセスの見える化』

保育の過程を写真や動画・文章等で保護者に伝えることで、わが子の成長を実感しやすくすると共に安心を与え信頼関係を築く。

2. 保育環境として

子どもが自分で選択できる環境・安心できる環境を発達段階にあわせて学年ごとにつくっていく。

3. 地域との交流

元気に挨拶、笑顔で気持ち良く日々のコミュニケーションを楽しめる人と人との繋がりをつくる。

地域で子育てをしている方々に、安全で安心できる居場所・子育てについての不安や悩みを気軽に相談できる場を提供する。

4. 質の良い保育を行うために、時間の効率化を図り、子どもから離れてゆつくりと休憩できる 時間と場所を確保する。

5. SDGsが実感できる活動を実践していく。